

＜ツウイン・フォーラム1＞ 話題提供の内容予定

- **直井 崇 先生**／【キーワード】形や色などによるコミュニケーション、「自分の思いを語り合う、自分の価値意識をもって批評し合う鑑賞」ほか。／【話題内容】「コミュニケーション」・「形」・「鑑賞」を大きなキーワードとして、実践した授業内容を二つ紹介。一つは社会科との連携授業。子どもたちは事前に社会科で縄文土器について学び、その後、学園敷地内から、自ら土を採取し、更にその土から粘土を作り、縄文土器を制作する授業。子どもたちは、縄文土器を制作する過程で、博物館に行き、本物の縄文土器を鑑賞し、友人の作品から刺激を受け、オリジナルの縄文土器を制作。その過程のコミュニケーションや鑑賞の姿勢などを発表。二つ目は、「アート プロファイリング」という名の鑑賞授業。毎時間の始め10分を活用して、子どもに何の予備知識も与えずに人物画の作品（モナリザ等）を観せる。子どもに探偵になってもらい、その人物がどのような人で、何を考えているか等を発言してもらおう。（パワーポイント）
- **高松 智行 先生**／【キーワード】自ら「つくりだす喜び」／【話題内容】子どもが楽しく活動することのみが大切にされる授業が多いように感じます。「自らつくりだす喜び」とは何なのか。戦没画学生慰霊美術館「無言館」の学習から卒業制作（アクリル画）に取り組んだ子ども達の姿から考えます。（パワーポイント）
- **栗城 敦志 先生**／【キーワード】つたえ合い、響き合い、地域社会とともに／【話題内容】「ぼくの絵があったよ。」「Aちゃんの絵は、ここがおもしろいね。」子どもたちのこのような言葉が飛び交う場所…。それは、学校内や作品展示ホールでは、ありません。子どもたちが遊び、親子で買い物をする加須の街なのです。本校は、「つたえたい」をキーワードとし、図画工作科を中心とした研究に取り組んできました。「つたえたい」思いを強く持ち、思考力・創造性・表現力を高めてきた手立ての一つが今回紹介する「加須小まちかえど美術館」です。子どもたちが、思いを込めて表現した一枚の絵をもとに、作者（子ども）・保護者・地域が響き合う姿。地域社会を巻き込むことによる学びの相乗効果をおたえします。
- **皆川 ひろ子 先生**／【キーワード】「自分のイメージをもつこと」、言語活動としての「話したり聞いたりする」「話し合ったりする」／【話題内容】第6学年「光を包む」の実践から。Part 1では「光を包む」に対するイメージを「囲む」「上から覆う」「下から包み込む」等、光を包む方法のイメージをもたせた上で、紙、針金、割りばしを使ったランプシェードをつくった。Part 2では、その作品をPRするためのポスターを制作した。これらの実践から、自分の感じたことや考えたこと、自分がとらえた形や色、心に思い浮かんだイメージなどを具体的に作る図画工作における言語活動を考えていきたい。（PC）
- **高野 敏 先生**／【キーワード】言語活動／【話題内容】自己評価の充実（言語活動）に取り組んできた実践から。
- **平田 耕介 先生**／【キーワード】えがくとことばをつなぐもの／【話題内容】図工の時間、子どもは、思ったこと、感じたことを形や色で表現することで、人それぞれであることに気づいたり、新しい自分に出会ったりします。一見無駄のように思えることにも、生きる糧となる大切な時間とエネルギーが混在していると感じます。「言葉」というキーワードを交えた表現と鑑賞の実践からそんな豊かさを感じていただければ幸いです。（ノートPC）

* * * * *

＜ツウイン・フォーラム2＞ 話題提供の内容予定

- **石川 清子 先生**／【キーワード】ゆたかな素材との出会い
- **正田 真由美 先生**／【キーワード】「柔軟な発想力と価値・材利用で表す技能の協働」「色・形・材料などから性質や感情、イメージなどを豊かに感じ取る力の育成」／【話題内容】上記キーワードに関連して、今までの実践から今回の共通事項などを考えていきたい。（パワーポイント、※パソコン）
- **嶽 里永子 先生**／【キーワード】・表現したい内容に関わる「発想や構想の能力」と「表現する技能」の育成(中学校『美術編』A表現より)／【話題内容】上記キーワードを視野に入れるとともに、国際バカロレア機構のMYPを意識した授業実践を紹介する。学校図書館と連携した学習、研究ワークブックの作成と活用、等。
- **大山 文子 先生**／【キーワード】他者との対話から学ぶ鑑賞学習／【話題内容】五重塔の再建者の宮大工「小川三夫さん」の講演とからめた授業実践報告
- **山田 一文 先生**／【キーワード】「作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合う」活動／【話題内容】鑑賞活動のまとめ方について提案する。対話による鑑賞の広まりによって、多くの子どもたちが、作品から自分が気づけなかった新たな情報を読み取ったり、作品を様々な解釈で鑑賞する楽しさを味わうことができるようになってきた。そのような楽しさが子どもたちの中で、美術を愛好していく確かな礎となるように鑑賞活動のまとめ方について実践として課題とともに発表する。授業は2年で実施した「じっくり、どっぷりファン・エイク」。／（パソコン、液晶プロジェクター）
- **中村 みどり 先生**／【キーワード】素材とのゆたかなかわり
- **丸山 圭子 先生**／【キーワード】「映像メディアの積極的な活用」「豊かな心」「他者、社会、自然・環境とのかかわり」「自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習」「生活を美しく豊かにする美術の働き」「感性」「想像」「五感」「イメージする力」／【話題内容】美術の創造活動の営みは、自然をはじめ、〈もの・ひと・こと〉などあらゆる対象をどのようにみて、かかわるのか、つまり、既成概念にとらわれない「自己形成」へとつながる大事な要素がある。今回は、映像メディアを活用した実践から1. 活動の振り返りと次の活動に生かす働きかけ。2. 五感のはたらきを意識化させる手立てとしての活用。3. イメージして物語をつくり、自分なりの意味や価値をつくる活動。以上3つを中心に行う。